

## 序 文

高畑赤立遺跡の発掘調査は前年に引き続いて今年度で3回目であり、これによって弥生時代後期の集落址はほぼ完掘したことになる。詳しい調査結果は本文に譲るとして、磨製石鏃や石庖丁をはじめとする弥生時代石器製作に係わる集落址の全体構造を明らかにしえたことは、大きな収穫であった。

本年度は考古学実習の受講生が多かったために、奄美大島笠利町の用見崎遺跡とこの赤立遺跡、そして宇土市の椿原古墳と3ヵ所を考古学調査の実習地として充てたが、どちらの発掘においても総じて今一つ学生の意気込みが希薄なことは、大いに気掛かりであった。また研究室では毎年実習のための発掘調査を行い、その整理報告を作成するまで一貫した教育体制を組んでいるので、少なくとも3年生以上は、未熟さからくる過去の過ちを止揚する機会であるにも拘らず、初心者と同様の失敗を繰り返すことが多かったのは、如何なものであろうか。一度発掘した遺跡は決して旧に復さないのであり、正確な記録の作成と爾後の研究の活用によりかろうじてその責任が許容されることを肝に銘じてほしい。

今年の発掘調査においても蘇陽町の諸機関、とりわけ蘇陽町教育委員会の各位には発掘調査を遂行するにあたり、筆舌に尽くしがたい御配慮を受けました。ここに深潭なる御礼を申すとともに、発掘調査を行なう場合にはこうした陰の支えに大きく依存していることを、学生諸君は今一度脳裏に刻みこむことを強く要望したい。

1995年12月15日

甲元眞之

## 例 言

- 本書は熊本大学考古学研究室による熊本県阿蘇郡蘇陽町大字高畑所在の赤立遺跡の発掘調査概要である。
- 発掘調査は蘇陽町誌編纂委員会の委託により、研究室の実習調査として実施された。調査期間中は蘇陽町誌編纂委員会および地元の皆様には全面的な協力を得た。
- 調査は1995年8月20日から28日までの計9日間にわたって行なわれ、現場の指揮は今村佳子が執った。
- 木材の鑑定は、熊本大学教育学部長大迫靖雄氏に依頼した。
- 本書の編集は今村佳子が行い、執筆者は各文末に明記した。
- 遺物の実測・製図および遺跡分布図の作成・製図は吉岡和哉が、遺構の製図は岡部是央が行なった。
- 調査および整理参加者は以下のとおりである。  
甲元眞之（熊本大学文学部教授） 木下尚子（同助教授） 小畑弘己（同助教授）  
岩谷史記 蔵富士寛（以上大学院2年次生） 飯田考俊 今村佳子 原田範昭 東真一  
（以上大学院1年次生） 田中大介 本田浩二郎 松浦一之介 山口健剛 若杉竜太  
（以上学部4年次生） 稲田和加 岡部是央 吉岡和哉（以上学部3年次生） 佐野朝子  
西山由美子 濱田智美 藤江望（以上学部2年次生）
- 調査および整理については以下の方々に御協力、御指導いただいた。  
原史章 春高一（蘇陽町誌編纂事務局） 坂田和弘 宮崎敬士 矢野祐介 帆足俊文  
（以上熊本県教育委員会文化課） 山田康弘（熊本大学助手） 大坪志子 本田晶子  
若杉あずさ 藤木聡（以上、考古学研究室学生）

## 本文目次

目次	1	三 検出遺構	
一 位置と環境		1. 7号住居址	10
1. 阿蘇の地理と歴史的環境	2	2. 土城	12
2. 高畑赤立遺跡周辺の石器製作址	5	四 出土遺物	14
二 調査の概要		五 まとめ	
1. 過去の調査概要	6	1. 高畑赤立遺跡の性格	17
2. 目的と経過	9	2. 弥生時代集落における位置	19

## 挿図目次

第1図 弥生時代遺跡分布図	3
第2図 遺構配置図	7
第3図 7号住居址実測図	11
第4図 第5トレンチ検出土城実測図	13
第5図 7号住居址出土遺物実測図	15

## 図版目次

図版1上	航空写真
中	遠景(南東側より)
下	近景(南側より)
2上	7号住居址 遺構面検出状況
下	7号住居址 III b層上面検出状況
3上	7号住居址 焼土及び遺物出土状況
下	7号住居址 炭化材出土状況
4上	7号住居址 完掘状況
下	第5トレンチ 遺構検出状況
5上	第5トレンチ 3号土城
下	第5トレンチ 7号土城
6左上	出土及び採集石器
右上	出土土器
下	出土石皿